

## トピックス

### 日本蜘蛛学会第54回 大会印象記

野口 奨悟

第54回日本蜘蛛学会名古屋大会の印象記を書かせていただくことになりました，九州大学の野口奨悟と申します。

はじめに，本大会を振り返る前に，大会前日に開催された観察会について感想を述べたいと思います。観察会は，午前の部と午後の部に分かれており，私は午前の部のみ参加させていただきました。今回の観察会場所である名古屋市東山公園は，休日ということもあって多くの方で賑わっていました。観察会当日は，天気恵まれ絶好の採集日和ではありませんでしたが，気温が高かったため，汗を滝のように流しながらの採集となりました。そんな猛暑の中の観察会ではありましたが，中部蜘蛛懇談会の皆さまが休憩場所や冷えた水，お茶などを準備してくださったおかげで，私を含め観察会参加者皆さんが誰一人として熱中症になることなく快適な観察会を体験することができました。観察会挙行にあたって尽力してくださった中部蜘蛛懇談会をはじめとした関係者の皆さまには心より感謝申し上げます。

観察会も終わり，いよいよ大会初日を迎え

ました。日本蜘蛛学会大会は，新型コロナウイルスの感染拡大によりオンライン開催が続いていました。しかし，本大会は第51回大会から約3年ぶりとなる，対面開催を実現することとなりました。対面での開催をすべく準備を進めてくださった片山先生や運営委員の皆さまには心よりお礼申し上げます。

最初のセッションは学生発表賞対象の一般講演でした。昨年度に引き続き，5名の学生による講演が行われました。トップバッターは新谷さんらによる「ズグロオニグモは飛んで火にいる夏の虫を狙うのか？」という発表でした。造網性クモ類における造網場所と光の関係性については，多くのクモ屋が興味のあるテーマであるため，大変興味深く聴かせていただきました。照明の発展とともに，クモ類の造網場所がどのように変化したのか気になるところです。続いては，上田さんらによる「クモ糸の紫外線耐性に関する研究」という題の発表が行われました。本研究では昼夜活動するジョロウグモと主に夜間に活動するオニグモにおける紫外線に対する影響を明らかにするために実験が行われました。実験の結果としてジョロウグモのクモ糸はオニグモの糸よりも紫外線に耐性があるという結果が得られていました。さらなる研究の発展により，様々な種においてクモ糸の紫外線耐性が明らかになることを期待しています。3番目は山本

さんらによる「クモ篩板糸用途解明に向けた *Dictyna felis* の網プロテオーム解析のための溶媒と溶解法の検討」という発表が行われました。本研究は、網の部位ごとにプロテオーム解析を行うことで、篩板糸の用途解明を目指したものでした。その結果、部位ごとに適切な溶媒が異なるということが明らかになり、篩板糸用途解明に向けて大きな前進となりました。今後の研究の発展に期待しています。4番目は澁谷さんらによる「阿蘇地域の草地におけるマダニおよびヤマビル（ヤマトシラカバ）の生息状況」という発表でした。今回は、阿蘇地域において、マダニ類やヤマビルの生息状況を調べ、それぞれ得られた分布が宿主や環境と関連づけて考察されていました。また、ニホンジカに寄生していたマダニ類のほとんどが頭部に

寄生していたという結果が得られていましたが、なぜ頭部に寄生部位が集中しているのか個人的に気になりました。そして、最後は開澤さんらによる「北海道の積雪下で活動するムカデ類とヤスデ類」という発表でした。ムカデ類やヤスデ類の積雪下での活動に関する研究は生態学的に重要な知見が得られる可能性があるにもかかわらず、ほとんど研究がされてこなかったとのことでした。本研究では、北海道の豪雪地帯 5ヶ所において約3年間のトラッ

プを用いた調査が行われ、積雪下において多様なムカデ類とヤスデ類の活動が確認されました。また、調査の過程で重要な種がいくつか見つかったとのことでしたので、さらなる研究の発展を期待しております。

以前から新たな講演枠として導入されたショートプレゼンテーションは、今回も多くの方の発表が行われました。今回は、クモのデザイン性に関する講演や文化クモ学的な講演など、新たな分野に関する講演が見られ、講演内容の多様化が進んでいると感じました。

また、今回は、高校生の工藤さんのホコリダニ

の行動に関する研究が多くの方の注目を浴びました。ホコリダニという材料の面白さ・魅力が多くの方に伝わったかと思います。

今回のシンポジウムでは、「生物の分布

情報の収集と活用：クモ類の現状、課題、挑戦」という題で各講演者による発表が行われました。まずは、藤田さんと近藤さんによる生物多様性情報の把握およびその基盤作成に関する講演が行われました。藤田さんは、モニタリングサイト 1000 を活用した市民調査によって、里山における全国規模の生物多様性の定量化に取り組んでいらっしゃいました。近藤さんは、環境 DNA を利用した生物多様性観測網 ANEMONE を使って、生物多様性情報の収集



および活用に取り組んでいました。これらのデータベースに我々市民が積極的に情報を提供することで、市民の力で生物多様性の保全に貢献していきたいと思いました。続いては、日本蜘蛛学会においてデータベース整備に取り組む谷川さんと須黒さんによる講演が行われました。まず、谷川さんによる CD ができあがるまでの歴史と現在の分布情報に関する議論が行われました。CD 日本のクモは、日本のクモ類の分布情報を網羅的にまとめたものであり、私を含め、多くのクモ屋さんによって愛用される CD です。講演を聞いてみると、CD 作成に関わる苦難や大変さがひしひしと伝わってきました。また、谷川さんは、現在までで入力された分布情報を見ると、地域ごとに入力データ数の偏りがあるということをおっしゃっていました。同好会のある地域やクモ相が魅力的な地域はデータが多く、そうでない地域では、データ数が少ないという傾向があるとのことでした。特に、私が住んでいる九州地方は、まだデータ数が少ない傾向にあるとのことでしたので、九州のクモ屋で協力しデータ数を増やしていきたいと思いました。最後に須黒さんによる慶応義塾幼稚舎構内における昆虫・クモ調査の結果と「クモ類生息地点情報データベース」の利用促進に関する講演が行われました。まず、慶応義塾幼稚舎の調査については、多くの種が記録されていますが、種構成に注目すると、一部の普通種が記録されていないという結果が見られました。これに関して、普通種であっても、生息に関わる何らかの条件があることが示唆されていました。そして、この謎を解き明かすために、「クモ類生息地点情報データベース」が解決のための有力な武器になると須黒さんはおっしゃって

いました。「クモ類生息地点情報データベース」は日本蜘蛛学会のサイトにて利用できるデータベースです。私も認識こそしていたものの、具体的な活用法を見いだせなかったため、これまで利用を躊躇していました。しかし、今回の須黒さんの講演にて、地点情報の蓄積から得られる知見の重要性について知ることができたとともに、1データの入力にかかる時間が非常に短いということを知りました。今回の講演を機に、「クモ類生息地点情報データベース」の入力数が増え、クモ類の分布に関する理解が深まることを期待します。

最後に宣伝も兼ねて、学生間交流の状況について紹介させていただきます。今回、私は、学生間交流の機会を作ろうとひそかに動いていました。というのも、毎年、多くの学生が大会に参加するものの、学生間の交流の場や大会以後の情報共有の機会が少ないという声を多くの方から聞いていたからです。そこで、今回、片山先生の許可をいただき、昼食の時間に学生クモ屋での交流会を開催しました。幅広い年齢層と多種多様な専門の学生が集まっており、短い時間ではありましたが、有意義な交流を行うことができました。また、大会のみで関係性を終わらせることなく、大会以後の学生間の交流を盛んにするべく、若手クモ屋ネットワーク「SPIDERLING」というコミュニティを作りました。現在、約 30 名の若手(広義)が所属し、「Discord」というアプリを活用し、日々白熱したクモに関する議論が行われています。今後は、議論だけでなく共同研究創出の場としても活用されることを期待しています。上記のコミュニティについてももしご興味がありましたら、野口までご連絡ください(kumonchu.9@gmail.com)。

長くなりましたが、この度は対面開催に向けてご尽力くださった運営の皆さま、そして、本大会を盛り上げてくださった講演者や参加者の皆さま、本当にありがとうございました。来年度も対面にて皆さまとお会いできるのを楽しみにしております。

(九州大学システム生命科学府

一貫性博士課程1年)

わざと国名を明記する必要はありませんでした。現在では世界で最も早く近代郵便制度を確立したことの自負があり、依然として国名をいれていません。とはいえ国威のためでしょう、フォークランド諸島の切手には女王エリザベスIIの横顔のシルエットが、セントヘレナ島のそれにはシンボルマークが入っています。

さて切手とは正式な「国家」以外は発行が認められません。国際的に認知されていない地域が勝手に発行したところで、海外郵便に使用が認められず受入を拒否されてしまいます。そこで問題になるのはかつての「植民地」、今では「海外領土」の名称が使われている地域です。

セントヘレナ島とフォークランド諸島の切手にはどちらも女王のシンボルが入っていますので、間違いなくイギリスの切手です。本来海外領土であってもわざわざ地域名を入れる、わざわざ現地で印刷すらできないのものをその名で出す必要とは何でしょうか。要はセントヘレナ島とフォークランド諸島は今もイギリスが問題なく領有していますよということのアピールなのです。現在領有権の争いのないセントヘレナ島はともかく、紛争にまでなったフォークランド諸島の切手は大いに意味があるのでしょうか。あたかも「フォークランド諸島」が切手を発行しているように見え、かつ正式なイギリスの切手ですから、海外郵便に使用され

## 言いたい！聞きたい！



### クモ切手の風景

19

笹岡文雄

セントヘレナ島とフォークランド諸島の切手です。共に独立国ではなく、イギリスの海外領土です。にもかかわらず切手にはそれぞれの地域名が入っていますが、国名はありません。万国郵便連合加盟国の規程では、切手には当該国の国名をいれることになっています。にもかかわらず明記されていないので、余計違和感があります。実はイギリスは1840年代郵便制度を導入し、世界で初めて切手を発行しました。そのため、イギリス国内で使用する切手にわざと



でも受入国は拒否ができないからです。

さて肝心の切手ですが、フォークランド諸島のもは昆虫と合わせた 11 枚組の中の 3 種です。少しデフォルメがきついですが、*Araneus cinnabarinus*（ご丁寧にも幼体と 2 種）と *Emmenomma beauchenicum*、珍しく英名 Green spider と Beauchene spider が付けられています。Green spider は南米本土、アルゼンチン、チリにも分布しフォークランド諸島では最大種であり、Falkland Green spider と呼ばれています。Beauchene spider はガケジグモ科の一属でやはりフォークランド諸島だけでなく南米本土にも分布しています。



セントヘレナ島は同じく 4 枚組の中の 1 種で、*Argyroides mellissi* やはり英名がついています。Golden Sail spider 確かに「金の帆」ですね。セントヘレナ島の固有種で 1870 年に記載されたイソウロウグモ属の種になります。いかにもイソウロウグモらしい形態ですね。

さてエリザベス II の死去に伴って、これらイギリスの切手のシンボルマークも変更になります。切手は国家であることの象徴でもあります。今度はどのようなものになるのでしょうか。

## 採集情報

日本各地で採集された稀産種や、都道府県初記録、島初記録、南限更新、北限更新など分布上の重要情報について掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

【このコーナーに掲載する記録は、証拠標本か、同定のキーとなる特徴がはっきりと撮影されている写真かのどちらかがあるものに限定させていただきます。目撃談のみのものにつきましては取り上げません。また、幼体の記録についてはいろいろと議論のあるところですが、とりあえず現段階では、投稿があれば参考記録として掲載を継続させていただきます。しかし、**幼体での記録は誤同定の危険が大きいですので、可能な限り避けてください。**】

カラオニグモ 鹿児島県屋久島小瀬田 2022 年 3 月 24 日 1♂1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定。

イリオモテアシナガグモ 鹿児島県屋久島小瀬田 2022 年 3 月 24 日 1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同定

シモジャナグモ 鹿児島県屋久島小島 2022 年 3 月 26 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

イトグモ 鹿児島県屋久島永田 2022 年 4 月 6 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

シバサラグモ 鹿児島県屋久島小瀬田 2022 年 4 月 10 日 1♀ 鹿児島県屋久島白谷

- 2022年5月20日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定
- 有川竹山ダム 2022年6月18日 1♀ 谷川明男採集・同定
- トライコアシダカグモ** 鹿児島県屋久島長峰  
2022年4月23日 1♀, 2022年4月29日  
1♂, 鹿児島県屋久島楠川 2022年6月21日  
1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同定
- オオハラダカグモ** 沖縄県石垣島底原ダム  
2022年6月27日 1♀ 谷川明男採集・同定
- カタオカハエトリ** 鹿児島県屋久島小瀬田  
2022年4月27日 1♂ 小西祐伸採集・谷川  
明男同定
- パイヌユレイグモ** 沖縄県石垣島底原ダム  
2022年6月27日 1♀ 谷川明男採集・同定
- コガネグモダマシ** 鹿児島県沖永良部島山田  
ダム 2022年6月22日 2♀ 谷川明男採集  
同定
- ササキグモ** 鹿児島県屋久島宮之浦 2022年  
5月18日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同  
定
- スズミグモ** 新潟県小千谷市坪野 2022年8  
月10日 1♀ 田中誠採集・同定
- ユノハマサラグモ** 鹿児島県屋久島宮之浦  
2022年5月18日 1♀ 小西祐伸採集・谷川  
明男同定
- ムシバミコガネグモ** 大分県臼杵市野津町  
2022年8月3日 1♀ 谷川明男採集・同定
- サガオニグモ** 鹿児島県屋久島宮之浦 2022  
年5月18日 1♂ 小西祐伸採集・谷川明男  
同定
- ヤマブシオニグモ** 神奈川県南足柄市三竹  
2022年8月10日 1♀ 谷川明男採集・同定
- キハダエビグモ** 鹿児島県屋久島小島 2022  
年4月26日 1♂ 2022年5月27日 1♀  
小西祐伸採集・谷川明男同定
- ナガイヅツグモ** 鹿児島県屋久島ヤクスギラ  
ンド 1♀ 2022年6月13日 小西祐伸採  
集・谷川明男同定
- ササキグモ** 神奈川県南足柄市矢倉沢 2022  
年6月10日 1♀ 谷川明男採集同定
- ナガズキンコモリグモ** 鹿児島県屋久島長峰  
2022年6月22日 1♂ 小西祐伸採集・谷川  
明男同定
- マルムネヒザグモ** 広島県広島市安佐南区大  
塚西 2022年6月4日 1♂ 本多美樹採集・  
鈴木佑弥同定
- コガネグモダマシ** 鹿児島県屋久島尾之間  
2022年7月8日 1♀ 小西祐伸採集・谷川  
明男同定
- ケアシハエトリ** 鹿児島県沖永良部島大山植  
物園 2022年6月22日 1♂ 2022年6月  
23日 1♀ 谷川明男採集・同定
- ミスジハエトリ** 鹿児島県屋久島長峰 2022  
年7月13日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男  
同定
- ムシバミコガネグモ** 鹿児島県霧島市溝辺町  
2022年7月22日 1♀, 2022年8月28日 1♂  
小西祐伸採集・谷川明男同定



ヤマトミジングモ 鹿児島県屋久島ヤクスギ  
ランド 2022年7月23日 1♂, 2022年7月  
23日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ナガズキンコモリグモ 鹿児島県屋久島長峰  
2022年7月24日 1♂ 小西祐伸採集・谷川  
明男同定

ツリガネヒメグモ 鹿児島県屋久島吉田 2022  
年7月26日 1♂2♀, 2022年8月18日 1♀  
小西祐伸採集・谷川明男同定

コケヒメグモ 鹿児島県屋久島ヤクスギラン  
ド 2022年7月31日 1♀ 小西祐伸採集・  
谷川明男同定

ユウレイグモモドキ 鹿児島県屋久島長峰  
2022年8月2日 1♀ 小西祐伸採集・谷川  
明男同定

コジャバラハエトリ 鹿児島県屋久島ヤクス  
ギランド 2022年8月2日 2♀, 鹿児島県  
屋久島白谷 2022年8月15日 1♂ 小西祐  
伸採集・谷川明男同定

タニカワヤリグモ 鹿児島県屋久島長峰  
2022年8月6日 1♂, 鹿児島県屋久島栗生  
1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ヒシガタヒメグモ 鹿児島県屋久島中間  
2022年8月11日 1♂ 小西祐伸採集・谷川  
明男同定

キノボリキヌキリグモ 鹿児島県屋久島ヤク  
スギランド 2022年8月12日 1♂ 小西祐  
伸採集・谷川明男同定

アシマダラヤリグモ 愛知県名古屋市天白区  
天白町大字八事うるおいの森 2022年9月4  
日 1♂ 加藤修朗採集・同定

コゲチャオニグモ 鹿児島県屋久島永田  
2022年8月17日 1♀ 小西祐伸採集・谷川  
明男同定

キジロゴミグモ 鹿児島県屋久島ヤクスギラ  
ンド 2022年5月23日 1♂, 2022年9月1  
日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ホラヌカグモ 愛知県愛西市塩田町木曾川右  
岸 2022年6月13日 1♂ 戸田尚希採集・  
加藤修朗同定

カワベコモリグモ 茨城県東茨城郡城里町下  
伊勢畑付近 那珂川の河川敷 2019年3月  
13日 1♀, 茨城県東茨城郡城里町上泉 那  
珂川の河川敷 2021年3月28日 1♂ 納谷  
典明採集・同定

クサチコモリグモ 茨城県常陸大宮市上伊勢  
畑付近 那珂川の河川敷 2021年4月21日  
1♂ 納谷典明採集・同定

イサゴコモリグモ 茨城県東茨城郡城里町下  
伊勢畑付近 那珂川の河川敷 2019年3月  
13日 2♂1♀ 納谷典明採集・同定

カワラメキリグモ 茨城県東茨城郡城里町下  
伊勢畑付近那珂川の河川敷 2019年3月13  
日 1♀, 茨城県東茨城郡城里町御前山 那珂  
川の河川敷 2021年4月21日 1♂ 納谷典  
明採集・同定

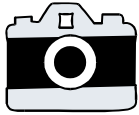
カワラコゲチャハエトリ 茨城県東茨城郡城  
里町下伊勢畑付近 那珂川の河川敷 2019年  
3月13日 1♀, 茨城県東茨城郡城里町上伊  
勢畑付近 那珂川の河川敷 2021年4月21  
日 1♂ 納谷典明採集・同定

シマササグモ 千葉県山武市松尾 2022年9

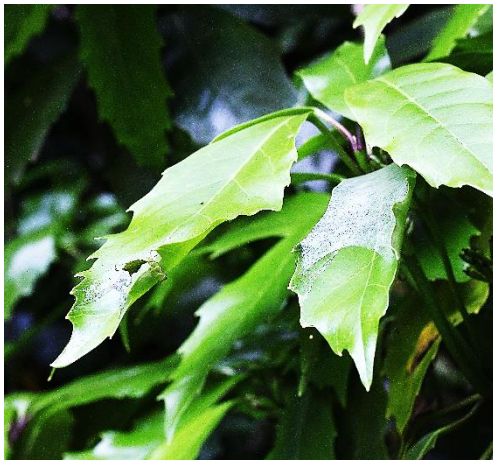
月 26 日 1♀ 谷川明男採集・同定

アカオビハエトリ 鹿児島県徳之島犬田布岬  
(アダンの茂み) 2022 年 6 月 9 日 1♂ 富  
士雅章採集・馬場友希同定

(新海 明・谷川明男集約)



## ギャラリー



『隣人』

2022 年 5 月 10 日、神奈川県葉山町で撮影。  
アオオニグモの雌雄成体が並んで造網し、すぐ  
となりのアオキの葉に隠れ家を作っていた。左  
がオス成体、右がメス成体。私はオスの成体は  
もはや普通の生活はしないように思っていた  
ので、オスの成体が普通に造網し隠れ家を作  
っていたことがちょっと意外であった。ただ、こ  
のオスがここで最終脱皮をした直後だったの  
か、成体になってからもしばらくは普通に生活  
するものなのかは不明。

撮影・コメント：谷川明男

## 遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mail では [dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp](mailto:dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp)  
(谷川明男) まで

遊絲の発行は、年 2 回 (5 月, 11 月) の予定。  
投稿締切は発行月の前月末日 (4 月末と 10 月  
末) です。

## 日本蜘蛛学会

homepage : <http://www.arachnology.jp/>

Atypus 閲覧のパスワードは asj

会費の納入、住所変更などは会員マイページで  
のご操作をお願いいたします。

年会費 正会員 7000 円 (学生は 5000 円)

会長・幹事

会 長

田中 幸一 [kt206540+at+nodai.ac.jp](mailto:kt206540+at+nodai.ac.jp)

庶務幹事

村田 浩平 [kmurata+at+agri.u-tokai.ac.jp](mailto:kmurata+at+agri.u-tokai.ac.jp)

片山 詔久 [nory+at+nsc.nagoya-cu.ac.jp](mailto:nory+at+nsc.nagoya-cu.ac.jp)

会計幹事

甲野 涼 [spidercatchup+at+yahoo.co.jp](mailto:spidercatchup+at+yahoo.co.jp)

繁宮 悠介

編集幹事

山崎 健史 [k0468874+at+gmail.com](mailto:k0468874+at+gmail.com)

図書幹事

原口 岳 [h1r1g3ch2+at+gmail.com](mailto:h1r1g3ch2+at+gmail.com)

---

遊 絲 第 51 号

2022 年 11 月 26 日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 田中幸一

---